

29Cl-am03

次世代を担う若者への薬学教育の取り組み

○飯村 菜穂子¹(¹新潟薬大薬)

【目的】新潟薬科大学薬学部では、次世代を担う若者への理数教育の拡充施策の一環として文部科学省所管の独立行政法人科学技術振興機構(JST)が推進する「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト：SPP(講座型学習活動[プランB])」の21年度課題に選定された。本プロジェクトは、中学校、高等学校と大学との連携により、児童生徒の科学技術、理科に関する興味、関心と知的探求心等を育成することを目的に実施された。

【講座計画】講座タイトルは、『くすりを「知る」「創る」「使う」を学ぶ講座』と題し、中学・高校理科を基礎に「基礎薬学」から「医療薬学」、「臨床薬学」に至るまでを体験型学習スタイルで学ぶ。本講座の特徴として、①計10日間の講義、実習、演習を開講し、指定する講義を必要時間受講し、新潟薬科大学が定める単位認定試験を受験、合格した高校生に大学より単位認定を行うという大学独自の取り組み、②医療現場に従事する薬剤師(新潟薬科大学同窓生)等と連携した地域の方々への社会貢献、「健康・お薬相談会」に参加する医療の現場に近い臨場感あふれる疑似体験学習の開講があげられる。

【結果・考察】8高等学校、6中学校、1中等教育校との連携により講座開講した。講義内容や薬学に対する興味などについて毎回アンケートを行ったところ、受講回数を重ねることで確実に薬学に対する興味が深まり、具体的に学びたい事についてまで述べられるなどの変化が見られた。また本講座を通じて、薬学への進学、薬剤師という職業へのあこがれをさらに強くする学生も増え、高校3年生については、講座終了後、本校への受験を行う学生も数多く見られ、本事業が児童生徒に与えた影響は大きく、勉学意欲を高める効果をもたらしたといえる。